

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05913

研究課題名（和文）ゲノム解析の革新に対応した患者中心主義ELSIの構築

研究課題名（英文）Patient-centered ELSI research on innovative cancer genomics

研究代表者

武藤 香織（Muto, Kaori）

東京大学・医科学研究所・教授

研究者番号：50345766

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 91,930,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、新次元がんゲノム医療における研究者の責任と役割を精緻化し、萌芽的技術によってもたらされる新たな倫理的ジレンマを解決することを目的として実施された。我々が同定した課題は、患者・市民参画、データ/ベネフィットシェアリング、小規模研究の倫理、医薬品の人道的使用と患者が治験薬を試みる権利(right to try)、遺伝的特徴に基づく差別とスティグマ、臨床シーケンスによる二次的所見の説明と知らないでいる権利、医療AIなどであった。それらのトピックについて理論研究と実証研究を、患者や市民、科学者と連携しながら実施した。本プロジェクトからは計31本の論文（うち9本の英語査読付論文）を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的な意義としては、先端的な医療を目指す領域におけるELSI研究を、がん研究者と進めるアプローチ、さらに患者や市民の視点から研究を進めるアプローチを探究できたことから、今後のELSI研究のモデルを確立できたことが挙げられる。また、コアとなるELSI研究チームは人文・社会系の学際的な研究チームから構成され、古典的な論点と新たな論点を融合させつつ、理論と実証の両面から成果を上げることができたことが挙げられる。社会的な意義としては、本研究班で複数の若手ELSI研究者が活躍して人材輩出できたこと、がん患者の関連団体とのネットワークが深まり、患者と協働するためのモデルを示せたことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：Our ELSI project research was conducted to redefine the roles and responsibilities of researchers in cancer genomic medicine and to solve new ethical dilemmas brought by emerging technologies. We identified topics such as patient and public involvement (PPI), data and benefit sharing, ethics of small-scale studies, compassionate use and right to try, disclosure of secondary findings from clinical sequencing and right not to know, genetic discrimination and stigmatization and health care powered by AI/cognitive computing. We conducted empirical research as well as theoretical research in collaboration with patient groups. We published 31 papers, including 6 English peer-reviewed papers.

研究分野：医療社会学

キーワード：倫理・法制度・社会的課題（ELSI） 研究倫理 人工知能 ゲノム がん 患者・市民参画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本計画研究の学術的背景の出発点として、学問としての ELSI (Ethical, Legal and Social Implications) 研究の位置づけを明確化する必要性が挙げられる。 ELSI 研究の祖である米国では、1990 年代、ヒトゲノム解析研究計画の開始とともに、その成果の応用に関して生じうる、倫理・法制度・社会的な課題を検討する必要性が生じ、ELSI と呼ばれる教育・啓発・研究活動への投資がなされ、新たな学際的な学問領域として ELSI 研究が構築された。それから四半世紀が経過しようとするなか、米国や欧州では、ELSI 研究を推進する研究拠点が指定され、人材育成も強化されてきた。しかし、日本ではそのような拠点がなく、研究の蓄積と人材の双方に乏しい状況が続いている。がん研究領域では、がんゲノム研究における目覚ましい研究成果を受けて、がんのシステム的理解の必要性が高まり、大規模かつ複雑なデータ解析は、早晚、臨床研究や診療行為にまで幅広く導入されることが見込まれる。そのため、ELSI 研究は、これまで捉えられてこなかった課題に対応するため、速やかに新たな位相に移る必要がある。

さらに、従来の国内外の ELSI 研究では、がん患者自身の存在については、研究の「客体」「対象」としての位置づけが前提とされてきたが、医薬品・医療機器開発や医療費の適正配分の意思決定において、国際的に「患者・市民参画」(patient and public engagement)の位置づけが高まるなか、患者の役割に正当な評価が加えられてこなかった点も問題である。

2. 研究の目的

本計画研究では、学際的学問としての日本の ELSI 研究の在り方を再構築し、がんを事例として、中長期的な ELSI 課題を探究することを目的とする。その際、領域内外の自然科学者との有機的連携をはかるとともに、患者・市民の視点を重視しながら進める。

本計画研究では、実施すべき研究活動を整理するため、全体を「(1) 中長期的な ELSI 課題の検討」と「(2) 学問としての ELSI 研究の基盤づくり」に分けた上で、実施項目と担当者を決定して取り組むこととする。

3. 研究の方法

人文・社会科学領域で ELSI 研究に寄与してきた人材を集め、学際的な研究班を編成した。年に 4 回程度の研究班会議を通じて、がんゲノム研究とその応用によってもたらされる課題の抽出と検討状況の報告を行い、それぞれの専門性を生かした研究を有機的に進めた。具体的には、質問紙調査やインタビュー調査を基盤とした実証研究、専門家と市民の間を結ぶ対話の設計と施行などの実践研究、法学や法哲学の立場からの理論研究、国内外の状況を踏まえた比較政策研究である。

4. 研究成果

「患者を軸として考える ELSI」という枠組みの中で、取り組むべき事項を抽出したうえで、研究期間内に次のことを明らかにした。「(1) 中長期的な ELSI 課題の検討」としては、医療 AI 技術をめぐる課題抽出と規制政策の検討、ゲノム医療が家族性疾患当事者に与える影響と法制度の検討、個人データの蓄積・共有・利用・配分及びデータサイエンスに関わる課題抽出と諸原則の検討を行った。また、「2. 学問としての ELSI 研究の基盤づくり」として、ELSI 研究史の整理、患者・市民参画をめぐる概念整理と対話の設計に取

り組んだ。以下では、その成果の概要を述べる。

(1)中長期的な ELSI 課題の検討

a. 医療 AI 技術をめぐる課題抽出と規制政策の検討

がんゲノム研究・医療の実用化の一例として、データを集約的に運用して医療上の判断に役立てる「AI」(人工知能)・デジタル医療に注目した。特に、1)研究開発に用いる学習用データ(learning data)の基盤、2)診断を支援するこれらのソフトウェアが、医師患者関係に及ぼす影響に注目した。1)については、学習データとしての患者情報の収集における「オプトアウト」の運用、意思決定の不安定さ、規制間の相違や矛盾が課題として指摘された。2)については、AI が示す「回答」「最適解(optimum)」の可能性と限界について、医療者と患者・市民とで共有しつつ、意思決定に活用する姿勢が求められる。また、EU 法における議論も参考にして、医療における情報処理をどこまで機械に託すか、AI の使用場面の限定のあり方に関する議論の必要性も示唆された。いずれも、研究者・開発者のみならず、市民・患者、医療者の視点を交えたグッドプラクティスの検討が必要な課題である。

また、がん医療における医療 AI 技術の展開にあわせ、医療 AI 技術の研究開発から臨床応用後の各段階における課題を検討した。研究期間の前半を医療 AI 技術の研究開発段階と位置付け、「ソフトウェア」「プログラム」「アプリ」規制の国際動向を整理した。IBM Watson を例として、医療 AI を取り巻く日米の政策、薬事規制の状況を比較した。薬事上、医療 AI の学習機能の評価方法が定まらないという課題があったが、現在では、国内でも医療 AI 技術による診断支援システムが承認されるなど運用の蓄積が始まっている。研究期間の後半を医療 AI 技術の臨床応用段階とし、医療 AI 技術を用いた治療選択を想定した課題を検討した。その一つとして、未承認薬・適応外使用が治療候補となった場合に、患者がそれを利用する制度と課題を明らかにした。さらに、この課題を患者・市民と共有して意見交換をする場を設け、患者・市民の視点を取り入れて検討を深めた。

b. ゲノム医療が家族性疾患当事者に与える影響と法制度の検討

国際的な動向の把握と論点整理を行い、家系員情報を含むゲノムデータの共有(Familial genomic data sharing, FGDS)における倫理的配慮について国際医学誌及び国際的なデータベースのガイドラインでは規定がないことを明らかにし、FGDS において必要な倫理的対応を検討、提言として論文にまとめた(Takashima et al., 2018)。

がんゲノム研究・医療の進展に伴い、患者にとっての家系員の病歴の必要性、及び患者遺伝情報の家系員にとっての有用性が高まり、患者と家族の遺伝情報の取り扱いに関するジレンマが生じてきている。そこで患者遺伝情報の家族への共有に関する医師の義務について海外の裁判例、並びに国内の法令及び学会指針を調査した。英国では遺伝情報の従来の考え方からの転換が見られるが、守秘義務の観点からそのような解釈が実施可能かどうかはさらなる検討が必要である。

また、遺伝的特徴に基づく差別について、その古典的な問題提起から今日に至るまでの議論を総括した。臨床シーケンスの二次的所見の取り扱いをめぐる議論を通じて、当初もっとも重要と考えられてきた「知らないでいる権利」に揺らぎがみられることを明らかにした(李・武藤 2018)。

さらに、遺伝的特徴に基づく差別をめぐる諸外国の法制を検討し、日本と同様に禁止法制をもたない英国での取り組みや議論の過程を明らかにしたほか、生命保険での危険選択の

観点から国内の保険会社社員への調査を実施した（飯田・武藤 2020）。

c. 個人データの蓄積・共有・利用・配分及びデータサイエンスに関わる課題抽出と諸原則の検討

国際的に医学研究におけるデータ公開・共有の流れが加速する現状を踏まえ、共有されるデータの提供元となる患者や市民における個人の健康情報やゲノム情報の共有についての認知度やデータの研究利用に対する態度を明らかにすべく調査を行い、遺伝情報を用いた研究については半数以上の対象者が知っているものの、そのデータ共有については認知度が低いこと、また、医学研究への協力に好意的な対象者の9割はデータ共有も認めるものの、共有の範囲や内容について多様な意見があることが明らかとなった。

さらに、データ共有に関する原理的検討を行った。なぜデータ共有がなされなければならないのかに関する規範的正当化の議論について検討した。世界人権宣言27条および国際人権規約の経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約15条に由来する「科学への権利」を軸として、日本国憲法13条や25条との関係を検討した。

ゲノムデータに限らず、さまざまな知識・情報を集約し、一層の精密な医療（Precision Medicine）を目指すべく、多因子疾患のリスク評価には多様な因子が用いられるようになる。こうした取り組みは、従来の学術データの取り扱いにおける個人情報の保護や差別防止の取り組みの限界になりうる（少数集団（SSC；Small scale community）ゲノム研究等）。また、アメリカの状況（21世紀治療法；21st Century Cures Act）の検討により、精密医療の展開を図るためには、基礎段階の研究から臨床にいたるまで、行政分野を横断した規制調整が必要になることが示唆された。

(2) 学問としての ELSI 研究の基盤づくり

a. ELSI 研究史の整理

1990年代後半から国内での歴史的な経緯を検討した。がんに関する萌芽的技術としては遺伝学的検査やゲノム解析技術が果たした役割は大きく、遺伝性腫瘍に関する倫理的な検討の場が家族性腫瘍研究会（名称は当時）によって牽引されてきた。さらに、がん対策基本法及びその後の改正を経て、がん対策ではがん患者を抜きにした議論はできないとの理念が確立され、臨床試験へのアクセスや患者・市民参画といった論点への注目につながっていた。他方、人を対象とする研究の規制が制定・複雑化するにつれ、「ELSI」には「倫理審査」に関連する事項も含みこまれてきた実態もうかがえた。

俯瞰してみれば、科学技術全般で語られてきた「ELSI」は、医学・医療を除いた議論が多く、制度的にもコミュニティとしての分断があり、絶えず医師を中心として臨床との接点を考慮した取り組みが中心となってきた。

b. 患者・市民参画をめぐる概念整理と対話の設計

国内における「研究への患者・市民参画」（PPI）の実態を調査し、それらを踏まえて、ELSI研究の成果が、科学ならびに社会にとって有意義なものとなることを目指す、つまり「責任ある研究・イノベーション」（RRI）の実現に向けた「研究への患者・市民参画」のあり方について、理念並びに実践方法の観点から、特に日本国内の文化的背景や研究開発の状況を加味して検討した。

また、PPIの規範的正当化のいくつかの可能性について検討した。PPIがなんらかの「成

果」をあげなければ意味がないのではないかとの指摘があるが、このような PPI の正当化論は、帰結主義的(功利主義的)正当化である。他にも権利論的(義務論的)正当化、民主主義的正当化が考えられることを明らかにして論文投稿し掲載予定である。また、この検討の基礎となった権利論に関する翻訳を出版した(丸ら 2018)。

これまでの国内外の動向の検討に加え、患者・市民の視点を取り込む、あるいは吟味した形での研究推進の望ましいあり方について、「講演」・「患者・市民間の対話」・「患者・市民・研究者の対話」の3部からなる「聞イテミル・考エテミル!?:がん研究の今と未来:ゲノムデータの共有ってなんのため?」を計2回開催した。第1回は乳がん(協力:東京医科歯科大学・三木義男先生、JST NBDC・川嶋実苗先生)、第2回は膵がん(協力:大阪大学・谷内田真一先生、京都大学/理化学研究所・鎌谷洋一郎先生)をモデルとして、研究者、市民、ファシリテーターを交えた対話の場を実現し、その成果は論文発表された(高島,東島,鎌谷,川嶋,谷内田,三木,武藤.2020)。さらに、基礎領域の研究者と患者・市民を対象とする PPI 手法の開発を行った。その一部は、「聞イテミル・考エテミル!?’’(<https://www.ppie.info/dialogue/>) というウェブサイトとして公開中であり、随時内容を追加中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 飯田寛、武藤香織	4. 巻 88(1)
2. 論文標題 英国の「遺伝学と保険に関するモラトリアム協定」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生命保険経営	6. 最初と最後の頁 26-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武藤香織	4. 巻 61(11)
2. 論文標題 臨床研究等における患者・市民参画に関する動向 用語の定義をめぐる苦悩を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 724-729
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中田 はる佳、武藤 香織、田代 志門、福田 博政、河野 隆志	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 がん遺伝子パネル検査と患者・市民参画：説明同意モデル文書の査読プロセスから学ぶ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 腫瘍内科	6. 最初と最後の頁 183-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武藤 香織	4. 巻 17
2. 論文標題 「遺伝子検査」へのダブルスタンダードと不透明な未来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 129-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24646/jnlsts.17.0_129	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 78(11)
2. 論文標題 患者情報の利活用と同意の限界「オプトアウト」をどう考えるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 病院	6. 最初と最後の頁 831-836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 医療AIの展開と倫理的・法的・社会的課題 (ELSI)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakada Haruka, Inoue Yusuke, Yamamoto Keiichiro, Matsui Kenji, Ikka Tsunakuni, Tashiro Shimon	4. 巻 -
2. 論文標題 Public Attitudes Toward the Secondary Uses of Patient Records for Pharmaceutical Companies' Activities in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Therapeutic Innovation & Regulatory Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2168479019872143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田はる佳	4. 巻 51
2. 論文標題 米国における未承認薬利用制度の拡大をめぐる議論 Right-to-Try 連邦法の成立過程から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床薬理	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3999/jscpt.51.83	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田はる佳	4. 巻 18
2. 論文標題 患者が未承認薬を「試す権利」は保障されるのか 米国未承認薬利用制度の概要から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakada Haruka, Takashima Kyoko	4. 巻 8
2. 論文標題 Where Can Patients Obtain Information on the Preapproval Access Pathway to Investigational Treatment in Japan? A Survey of Patient Advocacy Organizations' Websites	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical Pharmacology in Drug Development	6. 最初と最後の頁 978-983
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1002/cpdd.745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 船橋亜希子、井上悠輔	4. 巻 47 (suppl.1)
2. 論文標題 臨床研究の「記録」に関する新しいルールー臨床研究法をいかに理解し、いかに守るべきか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 s37-s41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高島響子、東島仁、鎌谷洋一郎、川嶋実苗、谷内田真一、三木義男、武藤香織	4. 巻 18
2. 論文標題 研究で用いたゲノムデータの共有に関する患者・市民の期待と懸念 研究者との対話を通じた試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 147-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原聖、水島希、東島仁、石原孝二	4. 巻 18
2. 論文標題 市民科学、医学・臨床研究への市民参画と当事者研究の相互関係を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 7-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八代嘉美、標葉隆馬、井上悠輔、一家綱邦、岸本充生、東島仁	4. 巻 18
2. 論文標題 日本再生医療学会による社会とのコミュニケーションの試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島仁、藤澤空見子、武藤香織	4. 巻 18
2. 論文標題 患者・市民参画を考える 国内調査からみた人の試料・情報を用いた観察研究の現状と展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島仁	4. 巻 61(11月)
2. 論文標題 「経験ある被験者」の養成とその必要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 736-739
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakada Haruka, Yoshida Sachie, Muto Kaori	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 “ Tell me what you suggest, and let ' s do that, doctor ” : Patient deliberation time during informal decision-making in clinical trials	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0211338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0211338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上悠輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 医療AIの展開と倫理的・法的・社会的課題 (ELSI)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医師会 第 次学術推進会議報告書「人工知能 (AI) と医療」	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takashima Kyoko, Maru Yuichi, Mori Seiichi, Mano Hiroyuki, Noda Tetsuo, Muto Kaori	4. 巻 19
2. 論文標題 Ethical concerns on sharing genomic data including patients ' family members	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Medical Ethics	6. 最初と最後の頁 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12910-018-0310-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai Akiko, Ri Izen, Muto Kaori	4. 巻 64(5)
2. 論文標題 Attitudes toward genomic tumor profiling tests in Japan: patients, family members, and the public	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 481-485
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s10038-018-0555-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永井亜貴子、武藤香織	4. 巻 36(15)
2. 論文標題 人を対象とする医学研究のインフォームド・コンセント 医学・生命科学の基礎研究に必要な手続きを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 2593-2598
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李怡然、武藤香織	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 ゲノム医療時代における「知らないでいる権利」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 72-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤香織	4. 巻 17
2. 論文標題 「遺伝子検査」へのダブルスタンダードと不透明な未来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 129-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田幸恵、中田はる佳、武藤香織	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 臨床試験に関与した、がん患者の語りー「治療」と「研究」を区別することの困難さに関する考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 122-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 香織、高島 響子	4. 巻 17
2. 論文標題 予防的手術をめぐる臨床倫理	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 家族性腫瘍	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18976/jsft.17.1_2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田はる佳, 井上悠輔	4. 巻 45(5)
2. 論文標題 2016年末に成立した米国「21世紀治療法」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸祐一	4. 巻 -
2. 論文標題 遺伝子解析を伴う家族性腫瘍研究の倫理的諸問題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 遺伝子医学MOOK別冊 最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリングシリーズ 1 遺伝性腫瘍・家族性腫瘍研究と遺伝カウンセリング	6. 最初と最後の頁 321-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸祐一	4. 巻 56
2. 論文標題 倫理的な臨床研究を実施するための検討事項	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 肺癌	6. 最初と最後の頁 969-971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.2482/haigan.56.969	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東島仁	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 研究公正から見た再現可能性問題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 133-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田はる佳、井上悠輔	4. 巻 45(Suppl.1)
2. 論文標題 2016年末に成立した米国「21世紀治療法」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 薬理と治療	6. 最初と最後の頁 s45 - s48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高島 響子	4. 巻 62(2)
2. 論文標題 遺伝医療における倫理的問題 二次的所見を巡る議論の動向	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ホルモンと臨床	6. 最初と最後の頁 179-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計79件(うち招待講演 25件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Kaori Muto, Akiko Nagai
2. 発表標題 What Public Concerns Exist Regarding Cancer Genomic Medicine? Japanese Experience and Beyond
3. 学会等名 The International Conference on Cancer Systems Biology Beyond (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 「国民参加型がんゲノム医療」に患者・市民参画は可能か？
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 生命倫理・医の倫理・法的規制 等
3. 学会等名 第61回日本婦人科腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 二次的に見つかる遺伝性腫瘍 倫理的観点から
3. 学会等名 第27回日本乳がん学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 「データヘルス改革」に伴う倫理的課題
3. 学会等名 第27回日本乳がん学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 臨床試験への患者・市民参画とは何か
3. 学会等名 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 遺伝的特徴に基づく差別の禁止について
3. 学会等名 がん患者学会2019（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 研究への患者・市民参画とは何か
3. 学会等名 第19回CRCと臨床試験のあり方を考える会議（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療における患者・市民との協働を目指して
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療実用化時代を迎えて：激動する社会と法的側面から
3. 学会等名 第7回日本難病医療ネットワーク学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療とわたしたち
3. 学会等名 第7回日本難病医療ネットワーク学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 遺伝・ゲノムの社会学～日本の30年間を振り返る
3. 学会等名 第241回日本保健医療社会学会関東定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療の今：がんと難病のELSIを考える
3. 学会等名 第4回ヒトゲノム研究倫理を考える会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Nagai, Kaori Muto
2. 発表標題 Genetic knowledge and attitudes toward genomic tumor profiling tests in Japan
3. 学会等名 The 13th International Workshop on Advanced Genomics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田寛、武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療と就労-産業医に求められる役割とは-
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 研究倫理とアイヌ研究の今後
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤香織、井上悠輔
2. 発表標題 先住民族を対象としたゲノム研究の倫理について：アイヌ民族と進める研究のあり方を考える
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 臨床研究法下での「被験者保護」の一年
3. 学会等名 第29回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田はる佳
2. 発表標題 日本で未承認薬を使う制度とその課題
3. 学会等名 日本科学未来館トークセッション「どう変わる!?がんとの向き合い方 人とAIでひらく新たな医療」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸祐一
2. 発表標題 ファインバーグの道徳的権利論
3. 学会等名 日本法哲学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 ゲノム医療の倫理的問題って何だろう? 私のことだけど、私だけのことじゃない話
3. 学会等名 日本科学未来館トークセッション「どう変わる!?がんとの向き合い方 ゲノム 研究で広がる可能性」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 患者遺伝情報に対する家族アプローチによる守秘義務の再考
3. 学会等名 日本生命倫理学会第31回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 高リスク未発症者に対する倫理的課題（シンポジウム3 遺伝性腫瘍 当事者の意思決定から先制医療に向けた提言）
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第64回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東島仁、和田濱裕之、三浦優生、桑名亜紀、高島響子
2. 発表標題 自閉スペクトラム症をめぐる科学を題材とする疾患当事者間ならびに研究者との対話の試み
3. 学会等名 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田濱裕之、東島仁
2. 発表標題 疾患当事者-研究者間のコミュニケーション創出に向けた探索的な場作りと、その課題：再生医療を中心に
3. 学会等名 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Funabashi
2. 発表標題 Criminal medical malpractice cases in Japan in the Past 20 years
3. 学会等名 The 25th World Congress on Medical Law (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 船橋亜希子
2. 発表標題 医療安全元年から20年 医療過誤に関する刑事裁判例の変遷
3. 学会等名 日本医事法学会第49回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 船橋亜希子
2. 発表標題 医療者の刑事責任が問われる医療過誤事例について—過去の裁判例から学ぶこと
3. 学会等名 第14回医療の質・安全学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimi Yashiro, Ryuma Shineha, Yusuke Inoue, Jin Higashijima
2. 発表標題 Communication trials between the public and the scientific community conducted by the Japanese Society for Regenerative Medicine
3. 学会等名 International Society for Stem Cell Research Annual Meeting, Melbourne, Australia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中田はる佳
2. 発表標題 未承認医療技術への患者アクセスに関する国際状況－米国Right-to-try法を中心に－
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸祐一
2. 発表標題 研究不正と内部告発
3. 学会等名 第39回日本臨床薬理学会学術総会、第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 船橋亜希子
2. 発表標題 ゲノム医療の発展に必要な規制を考える－ドイツ遺伝子診断法からの示唆－
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 情報の利活用と患者・市民
3. 学会等名 第4回 研究倫理を語る会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 Pragmatic research 患者情報を用いた研究開発を支える政策基盤と倫理
3. 学会等名 日本薬剤疫学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 研究開発のリソースとしての医療データの活用と倫理・法
3. 学会等名 シンポジウム「先端医療におけるイノベーションとレギュレーションの共進化」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 個人情報保護法改正と「学術研究」
3. 学会等名 バイオバンク連絡会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 遺伝子診療の関わる倫理的課題
3. 学会等名 第4回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高島響子
2. 発表標題 患者家系員を含むゲノム研究のデータ共有における倫理的懸念
3. 学会等名 日本生命倫理学会第30回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永井亜貴子、李怡然、武藤香織
2. 発表標題 がん遺伝子パネル検査に関する患者・家族の態度（1）～がん遺伝子パネル検査の認知度と検査に関する期待および懸念～
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李怡然、永井亜貴子、武藤香織
2. 発表標題 がん遺伝子パネル検査に関する患者・家族の態度（2） 遺伝性腫瘍に関する結果の家族内共有
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織、飯田寛
2. 発表標題 遺伝学的検査と生命保険(2) 日本の生命保険会社社員への調査から
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Izen Ri, Akiko Nagai, Kaori Muto
2. 発表標題 Disclosure of hereditary cancer risk within families: cancer patients' and families' attitudes and experiences in Japan
3. 学会等名 British Sociological Association Medical Sociology Study Group 50th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaori Muto, Jin Higashijima, Kumiko Fujisawa
2. 発表標題 A survey on patient and public involvement in clinical research in Japan: how should we empower researchers?
3. 学会等名 EASA Inaugural Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Izen Ri, Kaori Muto
2. 発表標題 Toward a sociology of telling genetic risk: Patients' decisions on communication about the prospect of hereditary cancer
3. 学会等名 EASA Inaugural Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田幸恵
2. 発表標題 患者のゲノム医療に対する思い
3. 学会等名 シンポジウム「がんゲノム医療を考えよう！」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療をめぐる施策動向と個人遺伝情報の保護
3. 学会等名 第91回日本産業衛生学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 萌芽的技術をめぐるELSIの議論の役割
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム研究・医療への患者・市民参画の導入
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 遺伝医療における倫理的・法的・社会的課題
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第63回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療の社会実装
3. 学会等名 日本遺伝子診療学会 遺伝子診断・検査技術推進フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 学際的「知の協創」としての生命倫理学
3. 学会等名 日本生命倫理学会第30回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 ゲノム医療と個人情報について
3. 学会等名 日本家族性腫瘍学会家族性腫瘍セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武藤香織
2. 発表標題 がんゲノム医療における倫理・法・社会的課題
3. 学会等名 第152回日本医学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jin Higashijima
2. 発表標題 Patient and Public Involvement (PPI)in Research: From Concept to Practice
3. 学会等名 14th DIA Japan Annual Meeting 2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東島仁
2. 発表標題 なぜ研究への患者・市民参画が必要なのか：国内の現状と展望
3. 学会等名 第60回日本神経化学会大会ランチョンセミナー (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kyoko Takashima, Akiko Nagai, Sachie Yoshida, Haruka Nakada, Yusuke Inoue, Jin Higashijima, Yuichi Maru, Kaori Muto
2. 発表標題 Japanese public expectation and hesitation on sharing of genomic data used in research: Comparative study of general adults with patients
3. 学会等名 第12回国際ゲノム会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiko Nagai, Kyoko Takashima, Sachie Yoshida, Izen Ri, Masato Uchiyama, Kaori Muto
2. 発表標題 Experiences, concerns, and attitudes about utilization of genetic information in Japan
3. 学会等名 第12回国際ゲノム会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 医療 A I と医師患者関係
3. 学会等名 日本医師会学術推進会議
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上悠輔
2. 発表標題 医療 A I (A I M) と医師患者関係
3. 学会等名 安全信頼技術研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李怡然、武藤香織、吉田幸恵
2. 発表標題 遺伝性疾患の発病リスクの子への告知 遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) を事例に
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東島仁
2. 発表標題 研究への患者・市民参画のあり方を探る
3. 学会等名 第16回科学技術社会論学会年次研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高島響子、永井亜貴子、吉田幸恵、中田はる佳、井上悠輔、東島仁、丸祐一、武藤香織
2. 発表標題 市民・患者からみた遺伝情報の利活用と差別(1) ～研究利用とデータ共有に関する一般市民対象調査研究～
3. 学会等名 日本人類遺伝学会 第62回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 船橋亜希子、井上悠輔、吉田幸恵、高島響子、東島仁、丸祐一、中田はる佳、武藤香織
2. 発表標題 データサイエンスのELSI研究を目指して
3. 学会等名 第3回研究倫理を語る会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤香織、高島響子
2. 発表標題 予防的手術をめぐる医療倫理
3. 学会等名 第22回日本家族性腫瘍学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武藤香織、高島響子
2. 発表標題 予防的医療と生と性 ―生命倫理から考えるRRSO―
3. 学会等名 第5回HBOCコンソーシアム学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸祐一
2. 発表標題 医学研究への患者参画の規範的正当化について
3. 学会等名 2016年度日本法哲学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 丸祐一
2. 発表標題 臨床研究への患者参画によって期待される利益について
3. 学会等名 第37回日本臨床薬理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kyoko TAKASHIMA, Yuichi MARU, Kaori MUTO
2. 発表標題 Reconsideration of “ research participants ” concerning a familial disease registry for prospective genomic research
3. 学会等名 The 13th World Congress of Bioethics for the IAB (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jin Higashijima, Sachie Yoshida, Haruka Nakada
2. 発表標題 Patient and Public Involvement Activities in Japanese Biomedical Research : Possibilities and Challenges
3. 学会等名 2017 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東島仁
2. 発表標題 疾患当事者の研究参画：可能性と課題を考える
3. 学会等名 第 37 回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上 悠輔、吉田 幸恵
2. 発表標題 ゲノム医療と人工知能の研究開発段階における諸問題
3. 学会等名 日本科学技術社会論学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中田はる佳、井上悠輔、吉田幸恵、丸祐一、高島響子、東島仁、武藤香織
2. 発表標題 人工知能の医療応用における倫理的課題の論点整理 IBM Watsonを例として
3. 学会等名 第37回日本臨床薬理学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kyoko Takashima, Seiichi Mori, Hiroyuki Mano, Tetsuo Noda, Kaori Muto
2. 発表標題 Ethical considerations in sharing genomic data of patients' relatives in cancer research
3. 学会等名 European Conference of Human Genetics 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田幸恵、井上悠輔、中田はる佳、高島響子、東島仁、丸祐一、武藤香織
2. 発表標題 「システム癌新次元」におけるELSI検討班の取り組み
3. 学会等名 第2回研究倫理を語る会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高島 響子、武藤 香織
2. 発表標題 家族性疾患登録および研究における家系員への倫理的配慮
3. 学会等名 日本人類遺伝学会第60回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 丸 祐一
2. 発表標題 医学研究と患者会
3. 学会等名 第27回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 井上 悠輔
2. 発表標題 人工知能のデュアルユースをめぐる議論
3. 学会等名 第27回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 井上 悠輔
2. 発表標題 医療と人工知能の接点 (AIM) の現在・未来
3. 学会等名 科学技術社会論学会第14回年次研究大会・総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 武藤 香織
2. 発表標題 遺伝子検査ビジネスとの区別と融合
3. 学会等名 日本遺伝子診療学会：遺伝子診断・検査技術推進フォーラム公開シンポジウム 2015
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 J・ファインバーグ 著、嶋津 格、飯田 亘之 編集・監訳、丸祐一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 544、
3. 書名 倫理学と法学の架橋：ファインバーグ論文選（丸担当：第8章「権利の本質と価値」）	

1. 著者名 井上悠輔、一家綱邦 編著、船橋亜希子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ（船橋担当：「Case2 プロトコルの規範性 愛知県がんセンター事案」）	

1. 著者名 甲斐 克則 編集、井上悠輔、船橋亜希子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 592
3. 書名 医事法辞典（井上担当：「移植医療」、「移植コーディネーター」、「遺伝子変異」、「ジェネリック」、「世界保健機関」、「ヘルシンキ宣言」、船橋担当：「DNA型鑑定」）	

1. 著者名 松本 直通、難波 栄二、古川 洋一 編集、高島響子、武藤香織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 メディカルドゥ	5. 総ページ数 228
3. 書名 遺伝子医学MOOK34号「臨床応用に向けた疾患シーケンス解析」（担当：「第7章3. ゲノムシーケンス解析の臨床応用における倫理的配慮」）	

1. 著者名 櫻井 晃洋 編集、高島響子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 メディカルドゥ	5. 総ページ数 300
3. 書名 viva遺伝子医学MOOK別冊シリーズ：最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング シリーズ3「最新多因子遺伝性疾患研究と遺伝カウンセリング」（担当：「網羅的ゲノム解析時代における倫理的法的社会的課題 遺伝情報に基づく差別に対する諸外国の法的規制の動向」）	

1. 著者名 公益財団法人 医療科学研究所 監修、武藤香織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法研	5. 総ページ数 272
3. 書名 徹底研究「治験」と「臨床」：運用の視点・患者の視点で読み解く（担当：第11章 臨床研究への患者・市民参画政策の黎明期に－「経験ある被験者」の貢献を考える）	

1. 著者名 有森直子, 溝口満子 編著、武藤香織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 260
3. 書名 遺伝/ゲノム看護	

1. 著者名 塚田 敬義、前田 和彦 編著、武藤香織	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医療科学社	5. 総ページ数 320
3. 書名 改訂版 生命倫理・医事法	

1. 著者名 神里彩子・武藤香織 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 医学・生命科学の研究倫理ハンドブック (第3刷)	

1. 著者名 伊藤文夫(編集代表)、船橋亜希子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 保険毎日新聞社	5. 総ページ数 632
3. 書名 人身損害賠償法の理論と実際	

1. 著者名 塚田敬義・前田和彦 編、武藤香織	4. 発行年 2015年
2. 出版社 医療科学社	5. 総ページ数 272(67-79)
3. 書名 「生命倫理・医事法」第5章ヒトゲノム解析と医療への応用をめぐる倫理的課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東京大学医科学研究所公共政策研究分野 http://www.pubpoli-imsut.jp/ 新学術領域研究「システム癌新次元」 http://neosystemscancer.hgc.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸 祐一 (Maru Yuichi) (10466708)	鳥取大学・地域学部・准教授 (15101)	
研究分担者	高島 響子 (Takashima Kyoko) (10735749)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・上級研究員 (82610)	
研究分担者	井上 悠輔 (Inoue Yusuke) (30378658)	東京大学・医科学研究所・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	東島 仁 (Higashijima Jin) (80579326)	山口大学・国際総合科学部・准教授 (15501)	
研究 分担者	中田 はる佳 (Nakada Haruka) (10592248)	国立研究開発法人国立がん研究センター・社会と健康研究センター・研究員 (82606)	
連携 研究者	吉田 幸恵 (Yoshida Sachie) (50713103)	群馬パーズ大学・保健科学部 教養共通教育部・講師 (32309)	